家庭科　学習指導案

松原市立松原第六中学校

指導者　Ｔ１：教　　諭

Ｔ２：栄養教諭

１．日　時　　　令和５年12月７日（木）第4時限（11時35分～12時20分）

２．場　所　　　1年2組教室

３．学年・組　　第1学年　２組　　３５名

４．単元（題材）名　　『私たちの食環境について考えよう』

５．単元（題材）の目標

◎日本と世界の食環境を知り自分に出来る事を考えさせる【SDGｓ1、2、11、12、13、14、15の目標】

〇自分たちの食が世界との関りの中で成り立っている事ことを知る。

〇食品ロスなど食の生産、流通、消費について考えさせる。

６．食育の視点

　　・自分の生活や将来の課題を見つけ、生涯にわたる健康な食生活を身につける【食品を選択する能力】

７．指導に当たって

　　　　本学年の生徒は、給食は比較的よく食べているが、魚やご飯の残菜が多い。また、『減らし』をする生徒も多く、ご飯の残食量は市内で一番多い学校である。前回の食品ロスの授業においても、頭ではこうした方がよいと分かっていても、なかなか行動に移すのが難しい生徒もいる。

そこで、身近な給食が、どのようにして成り立っているのかに気づき、前回の食品ロスの授業と関連させ、食の生産、流通、消費について考えさせたい。

また、社会科等の教科で、『貧困』『飢餓』『異常気象』などの学習を行ってきた。また、小学校でも『食料自給率』について学ぶなどの機会があり、この授業では、食の視点からこれまでの学習と関連を持たせ、食環境について考えさせる。

また、農林水産省のホームページ（令和３年度）では、日本の食品ロス量は523万トンあり、世界の食料援助量の420万トンの約1.2倍もの量を廃棄している。この現状は非常に深刻な問題となっており、日本でも平成28年5月『食品ロスの削減の推進に関する法律（食品ロス削減推進法）』が公布され、国を挙げて食品ロス削減に取り組むようになった。スーパーやコンビニエンスストア、外食産業でも食品ロスを削減するために、生産量の調整、割引やフードバンク、フードシェア等を活用するなど、積極的な取組みが見られるようになっている。

市内の中学校でもフードドライブの取組みを行い、子ども食堂などに寄付をしてきた。本時の授業において、自分たちにできる食品ロス削減の具体的な行動目標（毎日できること、続けてできること）を考えさせ、さらには地域社会へ発信していけるよう本題材を設定した。

８．授業について

　（１）本時の目標

◎日本と世界の食環境を知り自分にできることを考えさせる【SDGｓ1、2、11、12、13、14、15の目標】

〇自分たちの食が世界との関わりの中で成り立っていることを知る。

〇食品ロスなど食の生産、流通、消費について考えさせる。

　（２）本時の評価規準

・日本の食料自給率の変化を知る【知識・技能】

・輸入に頼りながら、一方では大量に食品ロスがあることについて考えることができる

【思考・判断・表現】

・どのような観点から私たちの食環境は世界とつながっているか考えようとしている

　　　　【主体的に学習に取り組む態度】

　（３）本時の準備物

　　　　・テレビ

　　　　・パソコン

（９）本時の展開

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | | 評価規準  (評価方法) |
| Ｔ１（教諭） | Ｔ２（栄養教諭） |
| 10分  導入 | ・今日のテーマについて話し合う  班活動⇒話し合い3分  ＋発表7分 | 黒板に板書する  〇スーパーで外国産の肉や野菜を見る  〇オージービーフはおいしい  〇あると思う  〇ない | ・自分たちの食生活の中で、世界とつながっているなと思う時はどんな時ですか。  ・日本には食べ物が十分あると思いますか |  |
| 30分 | ・写真を3枚見て考える  （スーパーにたくさん食べ物が並べられている写真、食べ物が捨てられている写真、飢餓の写真）  ・日本の食料自給率と諸外国の食料自給率のグラフを見て考えたことを発表する | 生徒の意見を黒板に板書する。  〇世の中には食べ物があふれている国もあればそうでない国もある  〇食べ物がなくてかわいそう  〇たくさん食べられる人とそうでない人がいる  〇まだ食べられるのにもったいない  ・日本の食料自給率は低くなってきている | ・この写真を見てどう思いますか？  ・世界では十分な食糧があるのに関わらず9人に1人が慢性的な栄養不足とされています。なぜでしょう。  ・米以外は1960年頃から年々減少し、大豆や小麦、穀物は多く輸入に頼っています。  ・小麦や大豆からできるものは何でしょう。 |  |
| 展開 | ・今日の給食が輸入に頼らなければどんな給食になるか考える  ・日本は60％輸入に頼っていますが、年間約500万トン廃棄しています。  ・給食の残菜の写真を見て考える  ・給食で一番残菜の多いものクイズ   1. ご飯 2. 主食 3. 副食 4. 牛乳   ・松原市内での取組みを知る | 〇ラーメン、うどん、パン、味噌汁が出せない  〇いえない  ・前回食品ロスについて学びましたね  〇ご飯  〇牛乳  〇もったいない  ○多い | ・ほとんど輸入に頼っているので今は十分あるように思うが、この先どうなるかは分かりません。  ・ある程度輸入に頼らなければ給食は成り立ちません。  給食の野菜や米は国産だけど魚はノルウェーなど外国産を使用している。  これでも日本には十分に食べ物があると言えますか？  ・これは何の写真でしょう  ・どう思う？  ・実はこれは六中の1週間前の残量の写真です。  ・こういったまだ食べられるのに捨てられる食品を『食品ロス』といいます。  （復習）  正解はご飯  63ｋｇのご飯を炊いて、15㎏捨てていることになります。  ・六中の人数で割ると毎日一人43g捨てていることになる  ・フードドライブについて |  |
| 5分 | ・本時のふりかえり。  ・日本と世界の食環境を知り、自分にできることを考える。  ①今日できること  ②毎日続けてできること |  | ・自分にできることは何か考えさせる。  ・どうしてそう思ったか。 | 【思考・判断・表現】（ワークシート） |
| まとめ |

（２）本時の板書計画・ワークシート　等

|  |
| --- |
| 板書計画  めあて　『私たちの食環境について考えよう』　　　　　　　　　　　（各班の意見）    ・  ・  ・  ・  ・  ・  ・  　給食の残量の写真  日本と諸外国の食料自給率のグラフ |

食育ワークシート

１．3枚の写真をみて思うこと。

2．日本の食料自給率と諸外国の食料自給率を見て思うこと。

3．給食の食品ロスの順位

　1位

2位

3位

4位

4．どうしたら給食の食品ロスを減らせるか

5．今日からできること、毎日続けてできることを書いてみよう。

◎この授業を通して感じたことを書いてみよう。